



健康しがを地域で支える

身近でなんでも相談ができて安心!

“かかりつけ薬剤師・薬局”



かかりつけのお医者さんや病院を決めるように、「かかりつけ薬剤師・薬局」を決めてみませんか。

薬局は医療機関で処方された薬の調剤や服用の指導はもちろんのこと、病気の予防や健康をサポートする大切な役割を担っています。

別々の医院や病院に通うごとに、それぞれ違う薬局に処方箋を持っていく人がいます。いろいろな薬局で薬を受け取ると、別々の医療機関で同じ効果の薬を重ねて処方されるかもしれません。また、別の医療機関で処方された薬との飲み合わせの安全性をきちんとチェックすることが難しくなります。

そこで、県では滋賀県薬剤師会とともに県民の皆さんに「かかりつけ薬剤師・薬局」を決めることをおすすめしています。身近に「かかりつけ薬剤師・薬局」を持つと、服薬情報を一カ所で継続して管理でき、薬による治療の安全性や有効性が向上します。夜間や休日でも薬についての疑問や心配を気軽に相談することができて安心です。身近な薬剤師・薬局を、かかりつけに選んでみましょう。

お薬の服用記録を管理



服用しているすべてのお薬の記録を一カ所で継続して管理することで、お薬の効果や副作用をしっかりと確認。同じ作用のお薬を重複して服用することが防げ、お薬の飲み合わせをチェックできます。



かかりつけ薬剤師の おすすめポイント

さまざまな医療機関・薬局で出されたお薬の飲み合わせ、一人ひとりの体質などを、かかりつけ薬剤師がチェック。安心・安全なお薬による治療を提供します。

飲み残しのお薬の有効活用



飲み残したお薬をチェックして、薬剤師が古くなったり使えなくなったお薬を整理します。医師と相談して投与日数の調整や飲み方を変更するなどして、飲み残しを減らすように工夫します。

医療・福祉・介護とのつなぎ役



医療機関へ処方薬についての疑問点の問い合わせや処方の提案を行います。介護支援などについての相談も受け付け、ケアマネジャーや訪問看護ステーションなどと連携してサポートします。



一般的な健康の相談など



市販薬や健康食品・サプリメントについての相談も受け付けます。服用しているすべてのお薬を薬剤師が把握することで、より細やかで適切なアドバイスが受けられます。



休日・夜間のお薬相談窓口



月～土曜は午後9時～午前9時 日曜・祝日は終日

077-522-1799

大津市・高島市

077-552-1109

草津市・守山市・栗東市・野洲市

0749-22-7811

彦根市・長浜市・米原市・愛荘町
豊郷町・甲良町・多賀町

0748-32-5530

近江八幡市・甲賀市・湖南市
東近江市・日野町・竜王町

詳しくはこちら



おくすり手帳

冊子版

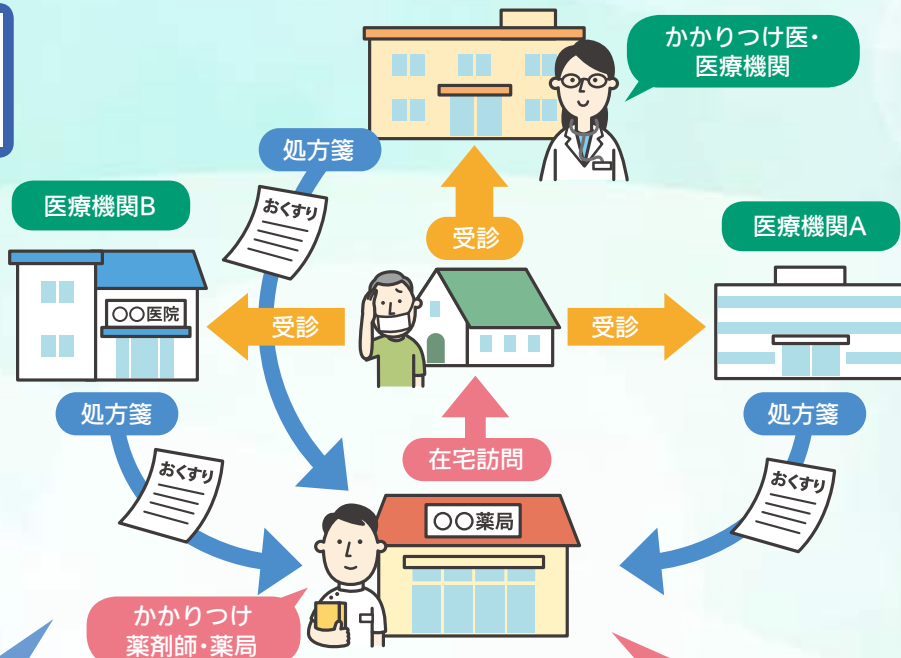


これまでに処方された薬の名前や量、使用法などを記録できます。副作用、アレルギーの有無、過去の病歴、体調の変化などについて一括管理できるので安心です。

電子版

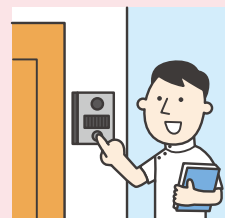


家族みんなのお薬をまとめて管理することもできます。1つのお薬手帳で過去に服用した記録がすべて残されるので、全国の医療機関で情報が共有できます。



薬剤師の在宅訪問

寝たきりや歩行困難で薬局まで行けない人が在宅で医療を受ける場合、薬剤師が自宅に薬を届け、薬の説明や管理のお手伝いをします。

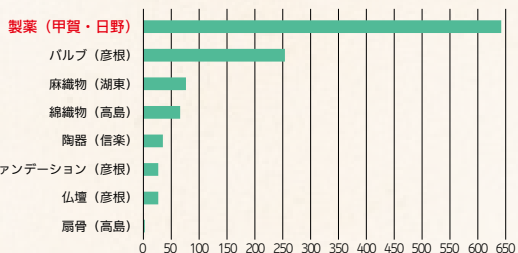


知っていますか?

製薬は滋賀の地場産業!

滋賀県内の医薬品生産額は、2,133億円で全国10位(平成27年)です。そのうち、滋賀県に本社がある企業(地場製薬企業)の生産額は645億円であり、滋賀県の9つの地場産業の中で第1位です。

地場産業の生産額 (平成 27年)



(注: 長浜のちりめんはデータ無し) 引用: 平成 28 年版および平成 29 年版 滋賀県の商工業 (徳門) 平成 27 年 滋賀県産業工業生産動態統計年報

産業振興の拠点

「滋賀県製薬技術振興センター」

地場製薬企業の多くが甲賀、日野地域に集中していることから甲賀市甲賀町に設置され、製薬に関する技術支援や許可事務などを行っています。平成30年6月に新築しました。これからの滋賀の製薬を支えています。

滋賀の薬の起源

薬草が育つのに適した気候風土の滋賀。伊吹山や鈴鹿山系などで古くから漢方薬が作られていました。戦国時代には、織田信長がポルトガル人宣教師のすすめで伊吹山に薬草園を開き、ヨーロッパから3,000種類の薬草を移植したという記録が残されています。江戸時代になると、近江商人の活躍とともに近江の高度な医薬が全国に知られるようになりました。

古来、滋賀には甲賀売薬、日野売薬、街道売薬と呼ばれる売薬があります。これらの流れを汲んだ古い歴史と伝統を持った本県の製薬は、富山県、奈良県、佐賀県と並ぶ配置用医薬品の生産県として発展してきました。

～甲賀売薬～



室町時代後期(1490年頃)に、多賀大社の僧侶や伊勢の朝熊嶽明宝院の山伏・修験者がお札とともに薬を分け与えたことが起源とされています。また、その山伏たちが今日に伝わる甲賀忍者のルーツだという一説もあります。

～街道売薬～



東海道の草津宿や中山道の彦根鳥居本宿で道中薬として旅人に販売されました。「和中散」は1630年頃から製造販売され暑気もたれに効くとされた粉薬で、「有川赤玉神教丸」は1658年頃から製造販売された丸薬の胃腸薬です。

～日野売薬～



日野出身の医師・正野玄三が「萬病感応丸」として処方し、近江商人が全国に売り歩きました。「萬病感応丸」は1714年頃から製造販売され、胃腸などに効くとされた丸薬です。